

アベノミックスとTPP

浜田宏一

(エール大学名誉教授、内閣官房参与)

2013年6月

アベノミックスと私

- なづけ親は中川秀直幹事長
- 三つの矢
- (1) 大胆な金融緩和
- (2) 機動的な財政出動
- (3) 成長戦略
- 潜在的な経済成長経路と需給ギャップを伴い
うる現実の成長経路との差

アベノミックスと世界の経済学の常識 (私の主張)の偶然の一致

- 『アメリカは日本経済の復活を知っている』
校正中に総裁からの電話
- 円高とデフレについて専門的著作のある黒田
東彦氏、レフレ派のリーダー岩田規久男氏の
日銀人事の組み合わせ 万全のルール

日銀流金融理論への メディアの偏向

- 貨幣政策は「劇薬だ」、主要新聞記者
- バレンタインデーの政変
- 結局は義理チョコだったのか？
- 新政策の効果を疑う。日経経済教室

安倍フェロープロジェクト

- 金融政策が間違えるのは「無知」のせい、
「既得権益」のせい、それとも、
- 情報操作のせい、あるいは認識不調和の
せい？
- 内外の主要評論家、政策当局者、政治家、
経済学者への聞き取り調査
- 安倍フェローとして研究（安倍晋太郎元外
相のゆかり）

馬鹿なのか、人間的なのか？

- 無知のせいだとすると私にも責任の一端
- 経済学にも貨幣数量説に対する反発
- 物(財、サービス)のことはお金と関係がないという「均衡景気循環論」も責任ありや？
- 人間の弱さだとすればスティーブ・レヴィットの相撲八百長と同じ話。
- オリンパスの例に見る、日本の会社のまじめ人間さ

空洞化助成、地方切捨ての経済政策

- 補助金で企業の移転を助ける。
- 地方の疲弊
- 円高対策でなく、円高の弊害助成政策

日銀法改正に向けて

- 日銀性善説は残念ながら間違い
- インフレ目標もその点から正当化
- そしてインフレ防止のためにもインフレ目標が必要

正しい経済学を知れば希望が生まれる。

- 亡国に至るを知らざれば之れ即ち亡国(田中正造)
- 日本の自然、人間性、技術、経営の長所(美しい日本)を政策に対する無知で無にしておいてよいのか？
- 既に閉塞感を打ち破りつつあるアベノミックス(正しい経済政策)

アベノミックスに対する疑念

- (1) 金融政策は、特にゼロ金利のもとでは無力
- 論より証拠、株式、為替など市場が答えている。
- 金利は上がるかもしれないが実質金利は下がる。
- (2) 国債価格が下落する。しかしそれにも勝る株価の上昇、輸出の活況

通貨安競争は変動制下ではむしろ望ましい。

- 為替競争の近隣窮乏化説。
- 二国が望ましい為替レートに固執すれば通貨安戦争。
- しかし国民経済での望ましい物価水準、雇用水準を二国が競えば、それは世界経済にとって望ましい。
- アイケングリーン/サックス, クーパー、岡田一浜田の結果
- 通貨安戦争などという概念に問題

インフレ目標が達成できなくても、 雇用生産の回復があればよい。

- インフレ目標は、日本銀行が言うことを聞かないときの次善の策
- 物価上昇なき回復ができればそれは最善。

実質賃金を上げなければいけないか？

- 回復の初期の段階ではむしろ実質賃金が下落して雇用、残業が増えればよい。
- レフレ政策は一種のワークシェア政策、AD-AS曲線
- 既存の雇用者が少しずつ我慢して、失業者を救い、その結果国全体のパイが増えていずれば全体が豊かになる政策。

インフレ目標はあくまでも次善の 政策

- 期待の重要性。
- 鉱工業生産、インフレ期待データの回復
- インフレなき所得と雇用の回復はむしろそれよりも良い状態

二の矢

- 固定為替下のケインズ経済学を学んだ論者
- 財政政策の後押しが必要
- ヒュー・パトリック、市村真一、伊藤元重、グレン・ハバード、グレグ・マンキュー、ポール・クルーグマン
- 金融を全開にしておけば財政政策も効く。

三の矢

- 潜在成長経路の向上
- 人口、移民政策
- 人的資本の質の向上
- 女性労働力の活用
- 規制改革、次善的な意味で特区の活用
- 米農家の過剰保護を止める
- TPPに交渉参加

TPP(環太平洋パートナーシップ)

- 米農家の過剰保護は国民に大きな犠牲を強いている。
- 比較優位の原則
- 貿易自由化に進む限りでTPPは有益
- 日本は貿易で立国したので、農業部門だけかたくなになる時代は終わるであろう。
- TPPにはその他にいろいろな条項がついているので注意
(ゴルフ会員になったら教会に行かされるようなもの)
- 知的所有権、著作権、法律摩擦、医療摩擦、文化摩擦
- アメリカのローヤーや、ウォールストリートの手先に交渉でうまくやられないように。

安倍ノミックスの教訓は

- 政治経済学的な意味できわめて重要なレッスン
- 金融政策がきかないといわれていたのは、使われなかったから、
- 試してみなかったから。
- 政策アジェンダ(争点)の設定、変更がいかに重要かということ。